



414
A 395



國會開設願望書御取扱之儀ニ付
上申

大正十一年四月
隈侯爵邸寄贈

此程新聞紙之報道ニ所及ニ道路ニ傳播スル所ヲ
見聞仕候ニ高知縣民片岡某等有志ノ惣代ト称シ
國會開設願望書ヲ御官ニ奉呈シタルニ書
記官之ニ面會シ該願望書ハ御官ニ於テ受理ス可キ
者ニ非ストテ却下セシ法ニ關スル書面ナルヲ以テ元老院
ニ呈シテ可ナラント云フニ依リ片岡等ハ元老院ニ至リ本書
ハ願望ニシテ建白ト異ナルヲ以テ其指令ヲ浸度旨ヲ述
ベ其書ヲ上リタルニ書記官之ヲ領收シ其後議官自
ラ片岡等ニ面會シ該書ハ一人一己ノ願望ト異ナリ
有志者カ國家ノ為メ願望スル所ナレハ本院ハ看認メテ



建白書ト為シ内閣ニ回呈シタリ然ルニ該書ハ建白
書ト性質ヲ異ニスルト主張スルハ本院ニ於テ受理シ
タルハ誤ナルニ依リ其書ヲ返却セサル可ラハ至ルト云ヒタ
ニ片岡等猶ホ建白ニ非スニテ願望タルヲ主張シタル
ヨリ遂ニ却下セラレ片岡等ハ再ニ御官ニ出頭シ書記官
ニ面謁シ其元老院ヨリ却下セラレタル手續ヲ返ヘ該書
ヲ奉呈シタルニ書記官ハ之ヲ領收シテ退キ又出テ斯ノ
如キ書面ハ太政大臣ノ執奏スヘキ者ニ非ス逆却下シタ
ルニ片岡等ハ書記官ト對面辯論之未人民タル者ハ
政体上ニ關スル事柄ヲ建白スルノ權利ハマレ也之ヲ
天皇陛下ニ願望スルノ權利ハナキカト質シタルニ書記官
ハ然リト答ヘ其權利ナキ理由ハ説明セラレト其他兩
三ノ縣民カ奉呈シタル者モ御官ニ於テ受理セラレス

シテ元老院ニ奉呈セヨト云テ元老院ニテハ願望書日ヲ
受理スルハ其權外ナリトシテ之ヲ却下シ未タ其書ヲ受
理セラレタル者アルヲ聞カヌ右ハ新聞紙之報道スル所ニシ
テ確然信ヲ置クニ足ラズト云テ此ノ重事ニシテ新聞
紙之掲載スル所誤謬ヲラハ必ス正誤ヲ命セラルヘキ其
掲載ヨリ既ニ一月余ノ日子ヲ閱スルモ未タ正誤セサルニ依ル
ハ其説ハ又信スヘキ者ト奉存候ニ付愚見之次第左ニ
上陳仕候夫ノ高知縣民等カ建言ト言ハスニテ願望書
ト稱スルハ其意ニ以テク建言ナル者ハ政府ニ忠告スルノ謂
ニシテ其言ヲ採用スルト否サルトハ建言ヲ受ケタル政府ノ權ニ
屬シ建言者ノ強テ採用セシムル權利アル者ニ非ス故ニ建
言者ニ於テ其言ニ採用不採用ヲ聞クヲ要セス又政府
ニ於テ其意ヲ告グルノ責ナキ者ナリ請願ニ至ラハ則チ然

ラス自ラ之ヲ行ハント欲シテ其許可ヲ他ニ請フノ謂ニシテ
請願者ハ必ス其許否ヲ聞カサル可ラス而テ請願ヲ受
ケタル者ニ於テモ其許否ヲ示サル可ラス建言願望トハ
其性質如此之區別アルヲ以テ高知縣民等ニ於テハ建
言ト云ハスモテ故リテ願望ト稱シ其指令ヲ得ン
ヲ要スル者ナラン然レモ今日我國人民カ政治上ニ於ル權
利ハ建言ニ止リ決シテ請願ノ權利ナキ者ト存存條令
日論者カ鑿々スル所ノ若ハ我國現時ノ政体ニ拘ハラ
漫ニ西洋各國ヲ引キ英國ニ於テハ云々美國ニ於テハ云々
ト例ヲ憲法定立國會開設之國ニ取リタルモ其言フ
所ハ獨リ我カ今日ノ政体ニ於テ允可不可ヲサレニナラス英
美諸國ニ於テモ聞届ク効力ニ無之ト思考仕俣如何
トナレハ試ニ英國憲法ヲ閱スルニ乞願ノ權利ナル者ヲ明

記セリト云モ其實際ヲ顧ルニ人民ニ於テ一身一己ニ關ス
ル願望ヲ除ク外政体上ニ付乞願セントスル者凡ハ其
意見ヲ國會議院ニ提出シ同院ニ於テ是認セラレタル
上國王ノ認可ヲ得テ國內ニ施行セ元々者ナリ故ニ其願望
ハ初メ一人若クハ數人ニ出ル者ト云モ國會議院ニ是認
セラレタルハ則チ一國人民ノ願望ナリ英國ト云モ云々一人
一己ノ願望ヲ以テ政体ヲ變更スルヲ為サンヤ殊ニ我國
今日ノ政体タル元老院ヲ置キ府縣會ヲ開キ漸次ニ憲
之基ヲ立テサレト云モ元老院ハ人民ノ代議場ニ非ス
府縣會ハ地方經濟ヲ議スルニ止リ萬機之政咸ナ
天皇陛下之親裁シ給フ所ナリ故ニ人民タル者政治上
意見ノ在ル有レハ策ヲ獻シ言ヲ建テ以テ其參考ニ
供ス可キナリ也是ニ敢テ請願要求スルノ權ヲランヤ若シ其

ノ有無ヲ顧ミシテ請願要求スル者アルモ政府ニ於テ
直ニ其願意ヲ許可ス可ラス唯参考ニ供スルニ過キカル
ナリ夫レ既ニ前ニ陳ル如ク政治上人民一己之願望モ國
會議院ノ同意ヲ得タル中ハ全國人民ノ意見ト見做ス
ヲ以其意向ニ依リ政治ヲ變更スルモ敢テ妨ケナシトモ
モ彼ノ高知縣民等カ幾府縣有志之惣代ト稱スル
モ其同志輩ノ惣代ニシテ一小部分ノ惣代ナリ閩國
人民ヲ擧テ其惣代ヲ依頼シタル者ニ非ス其請フ所ハ
一小部分ノ願望ニシテ閩國全部ノ意向ト見做ス可
ラス其一小部分ノ欲望ヲ以テ閩國全部ノ政治ヲ變
更ス可ラサルハ理之最モ觀易キ者ニシテ必シモ多辯ヲ
須多サルナリ政府ノ今日其書ヲ受理セラレサルモ其意
蓋シ此ニ出テラレタル者カ其受理セラレサルハ至當ノ事

ニシテ別ニ意見無御座俾得凡其御官ニ於テ一應領收
シテ之ヲ却下シ元老院ニ上ラシメ元老院モ一々ヒ之ヲ預
收シ既ニ内閣ニ回付シナカラ其書ノ性質ハ願望ニ
ヲ主張シ其指令ヲ要求スル由又之ヲ却下シ再ヒ御官ニ
奉呈スルモ又之ヲ却下スルニ至テハ私カニ充分之御取扱ニ
無之様奉存候夫レ御官ハ庶政惣理ノ衙門ニシテ
庶政之由テ出ル所御官ノ書記官タル者ハ元老院ノ
職掌モ明知スル所ナル可ク又願望書ヲ受理スルハ元
老院ノ職制ニ屬スルヤ否ヤモ知ル所ナル可キモ美圖スルニ
ハ非サレト云フトモモ元老院ニ呈シテ可ラズト明言シ而モ
元老院ハ之ヲ却下シタリ今彼輩ニ在テ之ヲ却推スル由
ハ政府ハ其處分ニ苦ミ互ニ之ヲ讓ルモノ如ク思量シテ其
受理セラレサル理由ハ沈乎トシテ知ルニ由ナキハ公然疑團

ヲ懷キ可申哉其疑團之集ル所ハ怨望ト為リ怨望王
之極ル所ハ乖離トナリ遂ニ不測之禍ヲ釀スモ知ル可ラス
ト竊ニ直々慮スル所ニ御坐儀私思意ニ在テハ願望王者ニ
對シ其權ナキ所以及ヒ其書ヲ受理スルモ直ニ許可ス
可ラレ理由ト政府漸進之御趣意トヲ懇々御説明
相成儀々彼ノ願望者ニ於テ進モ心服ハ仕間敷儀得共
徳固執抑敢テ其命ニ從クル等之儀ハ方々有之間敷又
其事ヲ記載スル新聞紙ヲ覽閱ス者ニ於テモ其御受
理相成ラレ理由ヲ兼知シ其御取扱ニ非カ不満之者有之
間敷ト奉存儀間何分ノ御余議相成度然ラレハ其為
メ大ニ民心影響ヲ生シ往々施政ニ障害ヲ與シ右ハ政府
ニ於テ確守スル御見込有之儀トハ奉存儀得共區々ノ衷
情黙止シ難ク忌諱ヲ顧ミテ上陳儀也

明治十三年六月三日
出廠于縣令島惟精

太政大臣三條實美殿

